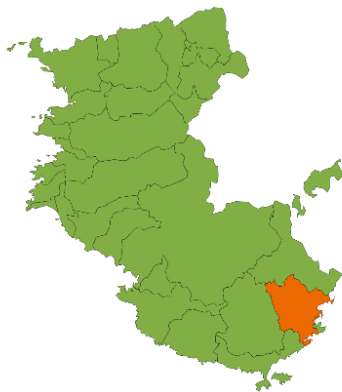


和歌山県東牟婁郡那智勝浦町

地域の文化や風習の体験から地域住民と触れ合い、
地域・自分・社会のより良いあり方・つながり方を考える。
興味関心に応じた地域のプログラムを通じて知見を深め、
今後に繋がる価値の創出をめざす。



【活動の基本情報】

参加学生数：4名（1年生：3名、2年生：1名）

活動期間：2016年6月～2023年1月

担当教員：八島雄士

1. 活動実施の経緯

那智勝浦町色川地区は、40年以上前から移住者受入を地域主体で行ってきた中山間地域の集落である。9つある区のなかで、小阪区を主としつつ、その他の区も含め、移住者や地元住民と関わりながら、これからの地域のあり方について考えることが本プログラムの主眼である。

2. 活動の内容

参加学生の興味・関心に応じ、地域のプログラムを通して知見を深め、今後に繋がる価値の創出を目的としている。色川地区は早くから移住者を受け入れてきた地域であるが、小阪区は、比較的移住者が少なく、昔からの地域行事や風習が残っている。また、棚田や茶畑が地域資源として知られている。今年度は、世話役の千葉さんが経営される「らくだ舎」や地域住民・移住者の方々を訪問、棚田に関わる行事の1つであるしめ縄作り体験等、数回の現地活動を実施した。

3. 活動を通じて

現地活動では地元住民、移住者の方々との交流によって、「色川地区の人々の暮らし」を学んだ。例えばらくだ舎では、提供する料理の食材に色川産を積極的に使用することや、手紙と食材と一緒に送るサービス等、色川で暮らすからこそできる取り組みを知った。また、農家民泊、銀杏農家、小水力発電等の取り組みや、その思いから中山間地域の暮らしが多様であることを学んだ。加えて、棚田の行事に参加するなかで、郷土愛は色川地区の人々の共通の価値観であることを感じた。来年度は棚田サミットが開催されるため、色川地区の人々の暮らしを更に学び、棚田サミットの準備や運営等に関わりたいと考えている。

4. 成果ポスター

和歌山大学観光学部 地域連携プログラム (LPP) 2022

那智勝浦町色川地区




地域の文化や風習の体験を通じて、地域住民と触れ合い、地域・自分・社会のより良いあり方・つながり方を考える（興味関心に応じて）地域をフィールドに、それぞれの知見を深め、価値を創出していく



色川地区について

那智勝浦町色川地区は、那智勝浦町の中心部から山間部へ車で30分ほど行った所に位置する、9つの区から成る、人口が300人ほどの小さな地域です。かつて盛況していた鉱業が1970年代に廃止となり、地域の人口は外部へと流出していきました。しかし、同時期より外部からの移住者を積極的に受け入れ、現在では地区全体の人口のおよそ半分を移住者が占めるまでになりました。ただ、LPPの活動を主に行っている小阪区は、他区と比べ移住者は少なく、その代わり地域の行事や風習が比較的残っている地域となっています。地域資源としては、美しい棚田や茶畑が有名です。特に「小阪の棚田」は、一度休耕田となった棚田を移住者を含む地域住民が主体となり再興させ、現在も関係人口の方々などを交えた保全活動が定期的に開催されています。



LPP活動について

2016年度から活動を行ってきた那智勝浦町色川地区におけるLPPは、色川ならではの行事や風習への参加（フィールドスタディ）を通し、学生の知見を深めることを中心に活動を行ってきました。また、活動を通して「学生が感じたこと」を地域住民に発表する場を設けることで、住民のいわゆる「鏡効果」醸成にも寄与してきました。2022年度は、これまでの活動をベースにしつつ、棚田などにまつわる地域の課題解決に向けた具体的なアクションを起こすことで、地域の課題を「自分ごと」にする取り組みも予定していました。

活動報告

2022年度は活動の規制が昨年度より緩和されたので、現地での活動を何度か実施することができました。地元の人々や移住者の方々や交流ができ、現地ならではの「色川地区の人々の暮らし」を学べました。棚田を見たり地域の伝統行事に参加したりしたことで、色川地区の人々の郷土愛を感じました。来年度は棚田サミットが開催されるので、「色川地区の人々の暮らし」をさらに学習することに加え、棚田サミットの準備や運営等に関われたらと考えています。

らくだ舎訪問

6月18日に顔合わせを兼ねて色川よろず屋・らくだ舎訪問を行いました。らくだ舎で提供される料理の食材には色川産のものを積極的に使う、手紙と食材と一緒に送るサービスなど色川で暮らすからこそできる取り組みについてお話を伺いました。喫茶室として、また商店として色川地区の方々のコミュニケーションの場となっていることを体感しました。



地域住民・移住者の方々の自宅訪問

私たちは農家民泊を行っている方、銀杏農家を営んでいる方、小水力発電を行っている方のお宅を訪問し「色川地区の人々の暮らし」や色川地区に対する思いに関するお話を伺いました。現地の人々の本当の思いは一人一人異なるもので、地域の守り方の多様性を感じました。中山間地域の日常も知ることができました。



しめ縄作り体験

11月27日に色川地区の伝統行事である、しめ縄作りを体験しました。色川地区の「棚田を守ろう会」の活動の一つで、子どもから大人までたくさんの人が参加していました。交流を通して色川地区の方々の温かみに触れることができ、地域の伝統を継承することの大切さを学ぶことができました。



合同報告会 当日の様子

和歌山県東牟婁郡那智勝浦町

テーマ：地域の文化や風習の体験から地域住民と触れ合い、
地域・自分・社会のより良いあり方・つながり方を考える。

本 LPP の報告では、私たちが那智勝浦町色川地区を拠点に行った活動報告を行いました。今年度は「地域の歴史や文化を学び、色川の暮らしに触れる」というテーマを基に、地域行事、移住者のお宅訪問、地域の交流の場となる飲食店について発表し、那智勝浦町の魅力を伝えることができました。全体の様子としては、様々な



LPP 同士の交流が見られ、互いに良い刺激を与え合えたのではないかと思います。コメントシートに質問がなかったので、いただいたリアクションについてのコメントを掲載します。

Q. 「ただ訪問するだけでなく地域と協力して伝統行事に関わっているのが良かった。」

A. コメントありがとうございます。今年度私たちは地域住民の暮らしを中心に実践的な学びをしてきました。来年度も今年度以上に地域の風習に積極的に関わっていきたいと思います。

Q. 「棚田サミットはチャンスだと思うので、PR方法を考えてほしい。」

A. コメントありがとうございます。まだ具体策は考えられていませんがチャンスを逃さないように効果的なPR方法を考える予定です。